

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価まとめ

1. 学校教育目標

未来をひらく 人間性豊かな生徒の育成

- 1 真実を見きわめ 豊かな創造性と 高い知識を養おう。
- 2 なかまを大切にし 自然を守り 豊かな心を養おう。
- 3 心身の健康に気をつけ 正しいことを実行する力を養おう。

2. 学校経営の方針

人間性豊かに 自らすすんで未来を創造する力を育む

- (1) 個々の学びを深め、「自ら学ぶ意欲」を育てる。
- (2) 自他を認め合い、深く考え、「豊かな心」を育む。
- (3) 思いや考えを交流し、「行動で示す力」を養う。

3. 学校教育推進の重点

◎明るい挨拶で豊かな心を育む学校

◎美しい歌声が響きあう学校

◎創造的な活動を求め続ける学校

- (1) 調和と統一ある教育課程の編成と実施
- (2) 共通理解に立った生徒理解と生徒支援
- (3) 「豊かな心」を育む指導の推進
- (4) 子ども一人一人の教育的ニーズに応じた支援・教育の推進
- (5) ICT機器の活用と危機管理意識
- (6) 教育環境の整備
- (7) 保護者・地域に信頼される学校教育の推進
- (8) 適正な予算執行と監査の推進
- (9) 教職員の意識改革の推進

4. 自己評価結果に対する学校関係者評価

<教育活動全般>

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善策の適切さ
学校は保護者に教育方針をわかりやすく伝えている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標をもとにした学校経営方針や推進の重点等について、入学説明会や学校公開日の教育課程説明会、学年別保護者集会等、また「すぐーる」や学校ホームページとにより情報発信を十分に行い、多くの機会、場面、方法により保護者に説明する。 ・校内の運営組織の各担当者同士の連携をとり、学級担任や各担当者から保護者に説明し、理解いただけるよう努める。 	A	A

宮の丘中学校に自分の子どもを通わせて良かったと思う。	A	・創造性と知性・豊かな心・心身の健康や正しい判断と実行力が成長するよう、教科学習や学級活動、生徒会活動、学校行事などの内容を充実させる。 ・安心・安全で楽しく通える学校となるよう、生徒同士、教師と生徒の信頼関係づくりに努める。	A	A
学校行事は子どもたちが生き生きと活動するように工夫されている。	A	・学級担任や行事等担当者を中心にして、生徒が想像力を高められるよう計画と支援を行う。(継続) ・年間を通しての行事の関連性なども踏まえて各行事の実施要領について検討と反省を行い、教育効果や実現性、活動内容を考慮して、生徒がより良く活動できるよう努める。 *R5年度から創造の日(学校祭)の生徒の部門分担方法を学級単位から学年単位に変更している。大きな混乱なく実施できており、学年単位とした狙いも十分達成できているものと思われる。	A	A
学校は、学校の様子を学校だより、ホームページなどでよく知らせている。	A	・定期的な学校だよりの発行や、学校ホームページを通して、適切なタイミングでの情報発信を継続して実施していく。	A	A
学校は、保護者や地域の人たちが授業や行事など、教育活動を参観する機会を工夫している。	A	・各学期に学校公開日を設定することや、学校行事について保護者や地域の方に適切にアナウンスすることで、「開かれた学校」の実現を目指す。	A	A
学校は、進路指導に関する的確な情報を提供している。	A	・「進路だより」の配布、学級掲示、学校ホームページへの掲載を通して生徒、保護者に情報提供を行う。また、必要に応じて学級担任からの個別の説明も行っていく。(継続) ・3年生は入試制度の変更点や奨学金、入試の心得など進路の具体的な内容を中心に、1・2年生は入試制度を見据えながらも自己理解と将来について考える力の育成を目指して指導し、学習資料の作成、配布を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・「進路」に関する項目は昨年度、今年度と低くなっている(保護者)。情報の発信をより積極的に行うとともに、学年や担任との連絡を繰り返ししていく必要がある。</p> <p>・進路に関する業務は専門性が高く、なるべく業務に専念できるような校内体制が求められる。データをまとめる作業などは、A1の活用も検討したい。</p>			

<学習指導>

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善策の適切さ
学習規律の徹底を図り、生徒の学習が効果的になるように指導している。	A	・全教科で学習規律の徹底を図り、授業に集中して取り組めるよう指導に努める。(継続)	A	A

生徒の基礎学力の定着を図り、学ぶ力や考える力が向上するように指導している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に実施している学力テスト等の結果分析を有効に活用し、日常の授業計画に生かしていく。 ・授業のみならず、学級経営等さまざまな場面で学習に対する意識を高めたり、学習に向かう行動を定着させるなどの方法を検討していく。 	A	A
教師は、生徒にとってわかりやすい授業となるように工夫している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業計画や教科会、研修会を通して、わかる、できる授業づくりの指導方法の改善に取り組む。 ・生徒が学習に対して興味・関心をもち、主体的に学習に取り組むような学習指導の方法について引き続き検討を進める。(継続) 	A	A
教師は、授業の中で生徒が学び合い、お互いの考えを伝え合う場面を設定し、言語活動の充実を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において生徒同士の意見交流の場を適切に設定し、クロームブックを活用するなど、今後も継続して授業内容と学習方法の工夫に取り組む。(継続) 	A	A
教師は、適切な評価を行い生徒に返すことで、次の学習への目標をもたせている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・評価の方法や規準について生徒に適切に伝えることを前提として、見通しをもって生徒が学習活動に取り組めるよう、1年間の学習計画を策定していく。 	A	A
道徳の時間などを通して、自他の心や命を大切にする、豊かな心を育てている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科の授業を生かしながら、全教育活動の様々な機会を通して、自他の心や命の大切さを十分に理解させる指導を積み重ねていく。(継続) 	A	A
学校生活全体を通して将来の生き方について考える力が身に付くように指導している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳科と総合的な学習の計画や、職業学習や国際交流、各学年での進路学習などを関連づけ、自己理解と自分の生き方について広い視野で真摯に考える力を身につけさせるように努める。 	A	A
「総合的な学習の時間」を通して、人のかかわりや生き方について考えさせるよう指導している。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの「総合的な学習の時間」に関わる計画を踏まえつつ、学習資料を見直したり、テーマや学習事項の設定についても見直しを検討したりするなど、生き方や自己実現に目を向けられるような学習活動を行う。 	A	A
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の将来に関すること」の項目の数値が低いのは、数値で表現できない領域ということもありやむを得ない部分もある。 ・地域の人との関わりや個別の対応を増やしたり、それを学校から各家庭に発信したりすることが必要である。 ・A I やクロームブックなどの情報機器の活用は、あくまでも手段の1つであり、それに依存することは望ましくない。自分にとって関わりのある情報だけでなく、様々な情報に触れたうえで取捨選択できる生徒を育成できることが望ましい。 			

<生徒指導>

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善策の適切さ
生徒の様子をよく観察し、生徒の悩みや相談に適切に応じている。	A	・教職員が個々の生徒の特性に対し共通理解を図り、日常の様々な場面で積極的に適切に支援をしていく。 (継続) ・昨年度に引き続き、今年度も教育相談の時間を十分に確保して実施した。今後も教育相談の充実に努める。	A	A
保護者との連絡を密にし、保護者の相談に親身に対応しようとしている。	A	・一人ひとりの生徒が成長に向かうようにとの意識をもって、生徒の状況について学校や家庭の様子を教師と保護者が日常的に情報共有し、指導するよう努める。	A	A
言葉遣いやマナーなど、社会のルールを守って生活するよう指導している。	A	・教師と生徒の日常会話や状況ごとの過ごし方など、学校生活全体の様々な場面で、言葉遣いやマナーなど他者を意識し、社会のルールを守る大切さについて指導を徹底していく。	A	A
生徒と教職員が互いにあいさつを交わすことで、人間関係の基盤をつくるよう指導している。	A	・本校生活テーマである「あいさつ」を教師や生徒会の組織や委員が積極的に挨拶を交わし、互いの関係作りを大切にすることに始まり、望ましい人間関係を築けるよう指導していく。	A	A
いじめや問題行動の早期発見・迅速な対応に努めている。	A	・いじめ調査や生活アンケート、健康観察アプリ「シャボテン」を定期的実施している。また日常から生徒の様子をよく観察し、生徒との会話をもつことで、早期発見や教育相談に努め迅速に対応することを継続していく。	A	A
生徒が良いことや努力をした時は、ほめたり励ましの言葉をかけている。	A	・行事や日常生活での生徒の活動状況を学級で評価している。また個々の生徒にこまめに声かけをして、教師と生徒のよりよい関係作りを行うよう努める。(継続)	A	A
生徒会活動・学級活動を通して問題意識を高め、生徒集団の自治意識を高めるように働きかけている。	A	・行事や日常生活において、生徒会役員会や常任委員会・外局会、また各学年委員会に機能的に取り組みせ、生徒が自治意識を高め、主体的に考え活動するよう指導に努める。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・健康観察アプリ「シャボテン」の活用が形式的になっていることは否めない。また、これに頼るのではなく手段の1つとして捉え、日常の生徒観察やコミュニケーションなど多面的・多角的な関りによる生徒理解が大切である。</p> <p>・学校だけでなく、関係機関との連携が欠かせない。教員以外の視点にも触れ、様々なものの見方や考え方を育てることが重要である。</p> <p>・多様性や個性を大切にすることは求められることではあるが、一方で、集団や共同体として相手を尊重する姿勢も大切にしたい。</p>			

<学習環境>

評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善策の適切さ
授業では、大型テレビ等の視聴覚機器やコンピュータが効果的に使われている。	A	・生徒一人一人の特性を考慮し、クロームブックをはじめとするICT機器を効果的に活用していく必要がある。また、教師間で日常的に情報交流を行い、授業での効果的な活用ができるように取り組む。	A	A
学校は環境美化に努めている。	A	・毎日の清掃活動のほか、学期末には清掃強化日（週間）を設定し、委員会を中心に生徒の環境美化に対する意識が継続するよう努める。 ・机並びや掲示物の管理などにも気を配って整然とした環境づくりを心掛ける。	A	A
生徒が安心安全に学ぶことができるように、日常の事故防止のための安全管理を適切に行っている。	A	・校舎内外の施設設備の状態や危険箇所がないか点検活動を行うとともに、事故防止のための啓発活動を行う。	A	A
学校関係者評価委員による意見	<p>・今年度は、酷暑・ヒグマ対応・暴風雪や大雪など、さまざまな不測の事態が起こった。生徒の安心・安全の確保が第一であることを念頭に置いて、避難訓練や啓発活動を行っていくことが求められる。</p> <p>・一方で「自分の身は自分で守る」力を育てることも大切である。安易な判断による「安全第一」は、生徒の成長機会を奪う可能性もある。</p> <p>・校内の飾りつけはいつも素晴らしい。学校の伝統として、その技術を伝えていけるとよい。</p>			

<全体を通して>

<p>・生徒は落ち着いた学校生活を送ることができており、「未来をひらく 人間性豊かな生徒」の育成がなされている。</p> <p>・「将来の生き方に関すること」「進路関係」など、継続して数値が低い項目がある。改善が求められることは当然であるが、具体的な施策を検討し実行することが必要である。</p> <p>・情報化社会の中で生きていく力を育てるためには、様々な手段を講じる必要がある。クロームブックなどの情報機器やAIの活用は便利である一方、そのデメリットにも留意し、関わり方を大人が示す必要がある。</p>
